



九州大学記者クラブ会員 各位

第6回（平成21年度）日本学術振興会賞を佐藤教授，白根准教授が受賞

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるため，創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し，その研究意欲を高め，研究の発展を支援していくことを趣旨として創設された日本学術振興会賞の第6回（平成21年度）受賞者として，本学先導物質化学研究所 佐藤 治 教授及び生体防御医学研究所 白根 道子 准教授が選ばれましたのでお知らせいたします。

なお，本件については，独立行政法人日本学術振興会より平成22年1月27日付で報道発表されております。受賞理由など詳細については，別紙の資料をご参照願います。

【参考：表彰式】

開催日：平成22年3月1日（月）

場 所：日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）

【お問い合わせ先】

九州大学学術研究推進部学術研究推進課 松尾

電 話：092-642-2131

FAX：092-642-7090

E-Mail：kissomu@kyushu-u.ac.jp

平成22年1月27日  
総務部研究者養成課

## 日本学術振興会賞の受賞者決定(25名の若手研究者が授賞)

日本学術振興会(理事長 小野元之)は、平成21年11月25日(水)開催の日本学術振興会賞審査会(委員長 江崎玲於奈)の選考に基づき、日本の学術研究の将来のリーダーと期待される日本学術振興会賞受賞者25名を決定しましたので、お知らせいたします。

### 1 日本学術振興会賞について

本賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与えブレークスルーを促そうとするものです。

選考は、世界トップレベルの研究者である江崎玲於奈先生、野依良治先生などにより構成される審査会で厳正な審査が行われ、受賞者が決定されました。

### 2 受賞者について

今回は、人文・社会科学及び自然科学にわたるあらゆる分野を対象としている本賞ならではの研究者25名に授与されます。

人文・社会科学系では、江戸時代の仏教が直面していた諸課題と、それに対して真摯に取り組み仏教の宗教性を復権させようとした仏教思想家の努力とを生き生きと描き出すことで、従来形骸化した思想として軽視されがちであった近世仏教思想の再評価を行った研究者等が選考されました。

自然科学系では、自らのアイデアや技術開発によって、長い間不明とされてきた「花粉管ガイダンス」と呼ばれる、花粉管が精細胞を雌しべの胚のうにある卵細胞に運ぶメカニズムが、卵細胞の隣の助細胞から分泌される特定の誘引物質によって引き起こされることを解明し、先駆的な研究成果を挙げた研究者等が選考されました。

なお、日本学士院において、これら25名の日本学術振興会賞受賞者の中から、日本学士院学術奨励賞の受賞者が選ばれることとされています。

### 3 授賞式について

平成22年3月1日(月)に日本学士院(東京都台東区上野公園7-32)において、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞の授賞式が同時に行われる予定です。

(お問い合わせ)

独立行政法人日本学術振興会総務部研究者養成課

課長 大城 功、課長代理 佐々木 康晴

電話： 03-3263-4934、1736 (直通)

第6回（平成21年度）日本学術振興会賞受賞者一覧

領域	受賞者氏名 (性別)(年齢)	現職機関 職名	授賞の対象となった研究業績
人社系	イダ 依田 高典 (男)(43)	京都大学 大学院経済学研究科 教授	情報及び健康に関する消費者選好の実証経済学的研究
	カネガ 榎永 真佐夫 (男)(38)	人間文化研究機構 国立民族学博物館 准教授	黒タイ文化の継承に関する研究
	カワイ 川合 伸幸 (男)(42)	名古屋大学 大学院情報科学研究科 准教授	認知と学習の起源に関する比較認知心理学的研究
	ニシムラ 西村 玲 (女)(36)	(財)東方研究会 研究員	普寂を中心とする日本近世仏教思想の研究
理工系	イガラシ 五十嵐 健夫 (男)(36)	東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授	3Dコンピュータグラフィックスのための直感的デザインインタフェースに関する先駆的研究
	オザワ 小澤 登高 (男)(34)	東京大学 大学院数理科学研究科 准教授	離散群と作用素環の研究
	キクチ 菊地 和也 (男)(43)	大阪大学 大学院工学研究科 教授	生体内分子を可視化する化学プローブのデザイン・合成・生物応用の研究
	サトウ 佐藤 治 (男)(44)	九州大学 先端物質化学研究所 教授	光を中心としたダイナミック磁性物質の開発
	シバタ 柴田 大 (男)(43)	京都大学 基礎物理学研究所 教授	数値的一般相対論の開拓およびその応用
	スキノメ 杉野目 道紀 (男)(43)	京都大学 大学院工学研究科 教授	高機能ホウ素反応剤のデザインと創製に基づいた触媒的精密有機合成の研究
	タケウチ 竹内 繁樹 (男)(40)	北海道大学 電子科学研究所 教授	光子を用いた量子情報通信処理の創成
	タケウチ 竹内 昌治 (男)(36)	東京大学 生産技術研究所 准教授	マイクロ流体デバイス技術によるナノバイオ研究
	チバ 千葉 滋 (男)(40)	東京工業大学 大学院情報理工学系研究科 教授	ロードタイム・リフレクションを活用したプログラミングの研究
	ハタ 畠 賢治 (男)(41)	(独)産業技術総合研究所 ナノチューブ応用研究センター 研究チーム長	カーボンナノチューブ合成の基礎と用途開発への応用に関する研究
	フジイ 藤井 聡 (男)(40)	京都大学 大学院工学研究科 教授	社会的ジレンマに関する社会科学的工学研究とその実践
	モチツキ 望月 拓郎 (男)(36)	京都大学 数理解析研究所 准教授	調和バンドルの漸近挙動の研究
ユササ 湯浅 新治 (男)(40)	(独)産業技術総合研究所 エレクトロニクス研究部門 研究グループ長	高性能磁気トンネル接合素子の開発と実用化	
生物系	ゴトウ 後藤 由季子 (女)(44)	東京大学 分子細胞生物学研究所 教授	細胞の増殖・生死・分化運命を制御するシグナル伝達機構の解明
	サカキバラ 神原 均 (男)(43)	(独)理化学研究所 植物科学研究センター グループディレクター	サイトカイニンの生合成機構の解明と着粒数制御に関する新規機能の発見
	シラネ 白根 道子 (女)(42)	九州大学 生体防御医学研究所 准教授	細胞内小胞輸送による神経機能の制御機構の解明
	タケダ 竹田 潔 (男)(42)	大阪大学 大学院医学系研究科 教授	自然免疫系による腸管粘膜免疫系の制御機構の解明
	トウハラ 東原 和成 (男)(42)	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授	匂いやフェロモンを感知する嗅覚の分子メカニズムに関する研究
	ヒガシヤマ 東山 哲也 (男)(37)	名古屋大学 大学院理学研究科 教授	花粉管ガイダンスをはじめとした植物生殖の動態および分子機構の解明
	ムラタ 村田 茂穂 (男)(39)	東京大学 大学院薬学系研究科 教授	哺乳類プロテアソームの多様性と生物学的意義の解明
	ヤマシタ 山下 俊英 (男)(44)	大阪大学 大学院医学系研究科 教授	損傷中枢神経回路の再生と可塑性を制御する分子機構の解明

※所属機関・職名は、平成22年1月1日現在、年齢は平成21年4月1日現在

# 日本学術振興会賞の概要

－優れた若手研究者の顕彰・支援－

## 1. 事業の趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要がある。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を設けた。

## 2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学の全分野とする。

## 3. 受賞条件

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成21年4月1日現在以下の条件を満たす者とします。

- 1) 45歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。）
- 3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお、日本国籍を有する者の場合はこの条件を問いません。）

## 4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学等研究機関の長（機関長推薦）
- 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（個人推薦）

## 5. 選考方法

日本学術振興会に設置する審査会において選考する。

なお、審査会は選考するに当たって、学術システム研究センターに意見を求めることができる。

## 6. 授賞等

授賞数は毎年度20件程度とし、受賞者には、副賞として研究奨励金110万円を贈呈する。日本学術振興会賞受賞者の中から特に優れた者に、日本学士院学術奨励賞が授与される。また、授賞式は日本学士院を会場として行う。

7. 平成21年度（第6回）推薦状況

平成21年度(第6回)			前回からの候補者※1	合計※2
機関推薦	個人推薦	計		
234人(196人)	19人(21人)	250人(214人)	114人(160人)	364人(374人)

※1 本賞の推薦書は2年間有効であり、前回の被推薦者から受賞者及び当該年度の4月1日時点で45歳を超える者を除いた者を審査対象者とする。

※2 重複推薦は1名で計上。

※3 ( )内は、前回の人数

8. 第6回（平成21年度）日本学術振興会賞日程

推薦依頼	平成21年4月10日
推薦書受付	平成21年5月26日～28日
予備審査 (学術システム研究センター)	平成21年6月上旬～11月上旬
審査会	平成21年11月25日
受賞者決定報道発表	平成22年1月27日
授賞式	平成22年3月1日

9. 日本学術振興会賞賞牌

このメダルは、形態の基本となる円、三角形、正方形を重ね合わせ「創造」を表現し、その中心に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配することで、世界トップレベルの研究を発信するという趣旨のデザインをしました。

(デザイン:東京芸術大学教授 飯野 一朗)



## 日本学術振興会賞審査会委員名簿

氏名（所属機関・職）

委員長

江崎 玲於奈(茨城県科学技術振興財団理事長/横浜薬科大学学長)

石 弘光(放送大学学長)

石井 米雄(アジア歴史資料センター長)

金澤 一郎(宮内庁皇室医務主管/日本学術会議会長)

郷 通子(名古屋大学名誉教授)

鈴木 昭憲(東京大学名誉教授)

外村 彰(日立製作所フェロー)

中西 重忠(大阪バイオサイエンス研究所所長)

野依 良治(理化学研究所理事長)

本田 和子(お茶の水女子大学名誉教授)

増本 健(東北大学名誉教授)

森 重文(京都大学数理解析研究所教授)

(敬称略)

# 佐藤 治(サトウ オサム)

(SATO Osamu)



生 年 1964年 出 身 地 宮城県

現 職 九州大学先導物質化学研究所 教授  
(Professor, Institute for Materials Chemistry and Engineering, Kyushu University)

専 門 分 野 光化学

略 歴 1989年 東京大学工学部卒  
1991年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了  
1994年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了  
1994年 博士(工学)の学位取得(東京大学)  
1994年 神奈川科学技術アカデミー研究員  
1998年 神奈川科学技術アカデミーグループリーダー  
2005年 九州大学先導物質化学研究所教授(現在に至る)

## 授 賞 理 由

### 「光を中心としたダイナミック磁性物質の開発」

(Development of Tunable Magnetic Materials)

21世紀は光を使いこなすことが大切であるといわれている。光を制御すること、そしてその光を用いて物質の性質を制御することは、現在最も重要な課題の一つである。佐藤治氏は、構造や電子状態を精密に設計できる分子性物質を用い、光で自在に物性制御が可能な新規機能性材料を数多く開発することに成功した。

特に、光で磁性を制御できる材料の開発は、世界に先駆けた同氏の独創的なアイデアによるものであり、その成果は高く評価されている。また、光応答性原子価異性材料、光応答性スピン転移材料、光応答性フォトニック結晶をはじめ、磁性、光学特性などの様々な物性を光制御できる優れた機能性材料を開発してきた。同氏の研究は当該分野に大きな刺激を与え、世界中で数多くの光機能性材料が開発される契機ともなった。

同氏の研究は、基礎科学的な観点にとどまらず、新たな高密度記録媒体への適用などといった応用面でも大きな期待が寄せられ、今後更なる発展が期待される。

# 白根 道子(シラネ ミチコ)

(SHIRANE Michiko)



生 年 1967年 出 身 地 滋賀県

現 職 九州大学生体防御医学研究所 准教授  
(Associate Professor, Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University)

専 門 分 野 分子・細胞神経科学

略 歴 1990年 大阪大学理学部卒  
1990年 日本ロシュ(株)研究所研究員  
1999年 博士(薬学)の学位取得(東京大学)  
2000年 日本学術振興会特別研究員-PD  
2003年 九州大学21世紀 COE 上級研究員  
2003年 科学技術振興機構さきがけ研究者  
2004年 九州大学生体防御医学研究所助手  
2006年 九州大学生体防御医学研究所助教授  
2007年 九州大学生体防御医学研究所准教授(現在に至る)

## 授 賞 理 由

### 「細胞内小胞輸送による神経機能の制御機構の解明」

(Regulation of Neuronal Function by Vesicular Trafficking)

神経細胞の形は、他のどの細胞とも全く似ておらず特殊である。すなわち神経細胞は、遠く離れた別の細胞と接続し神経回路を作るという特別な機能のために、長い神経突起という特殊な構造を有している。神経突起が伸展する際には突起部分の細胞膜の表面積が増えるため、突起方向に膜成分を輸送供給する必要がある。

白根道子氏は、神経突起方向へ膜成分を送る神経細胞内輸送システムの制御機構を解明した。すなわち新規タンパク質「プロトルーディン」を発見し、それが細胞内小胞輸送システムを制御する重要な役割を果たしていることを明らかにした。

同氏の研究は、新たな機能タンパク質の発見と、その過剰発現系や遺伝子欠損マウスの樹立、および最新の解析技術により神経突起伸長という重要な生理機能の新たな分子機構を発見した点で特筆される。その後、プロトルーディンの異常が神経変性疾患の一病型の原因となることも明らかになり、同氏の研究が神経疾患の理解につながる重要なものであることが示されている。

同氏の業績は、ほぼ独力でなされた極めて独創性の高い研究成果であり、神経機能の基礎研究から臨床医学に及ぶ幅広い分野において、今後の研究の更なる発展が大いに期待される。